

「ししじま」お披露目式 獅子島と水俣を結ぶ新旅客船



式辞を述べる
須寄社長



ゆったりとした船内



餅投げに盛り上がる会場



水俣港での内覧会

8月23日、新旅客船「ししじま」の就航を祝い、母港の幣串港でお披露目式が開催され、有限会社獅子島汽船の従業員や地元住民など関係者51人が出席しました。

「ししじま」は、全長約18メートル、総19人で定員は45人となっていて、老朽化した前の船より6メートルほど長く、安定感が増したと共に、客席を少なくしたことによって船内にゆとりを持たせています。

運行は、獅子島と水俣を1日に3往復、片道約30分で結んでいて、通院や買い物のために欠かせない航路となっています。

式では、同社の須寄隆文代表取締役社長が「皆さまのご支援に深く感謝。本線が地域の皆さんの暮らしに寄り添う架け橋になり、発展と豊かな生活に貢献できるよう、安全第一を胸に全力をつくす」と式辞を述べました。



門出を祝いテープカット



指江浮き棧橋

指江港の浮き棧橋完成 水産業発展に期待

8月20日、指江港で整備が進められていた浮き棧橋の完成を祝う竣工式があり、地元住民や漁業者、工事関係者ら約50人が出席し、今後の安全を祈りました。

橋は、鉄筋コンクリートに発泡スチロールを内蔵したハイブリッド製の浮体形状（22メートル×10メートル）。係船柱は8基と防舷材20基を設置し、渡橋で岸壁とつなぐ構造となっています。

指江自治公民館の濱崎慎二郎館長は「浮き棧橋の完成を機に、これまで以上の水産業発展が期待できる。関係者に感謝し、大切にしていきたい」とあいさつ。県北薩地域振興局の瀬戸口淳一建設部長は「漁獲物や漁具などの効率的な荷揚げ作業が可能になり、就労環境の改善が見込める。同地区の漁業活動の発展を祈願する」と祝辞を述べました。